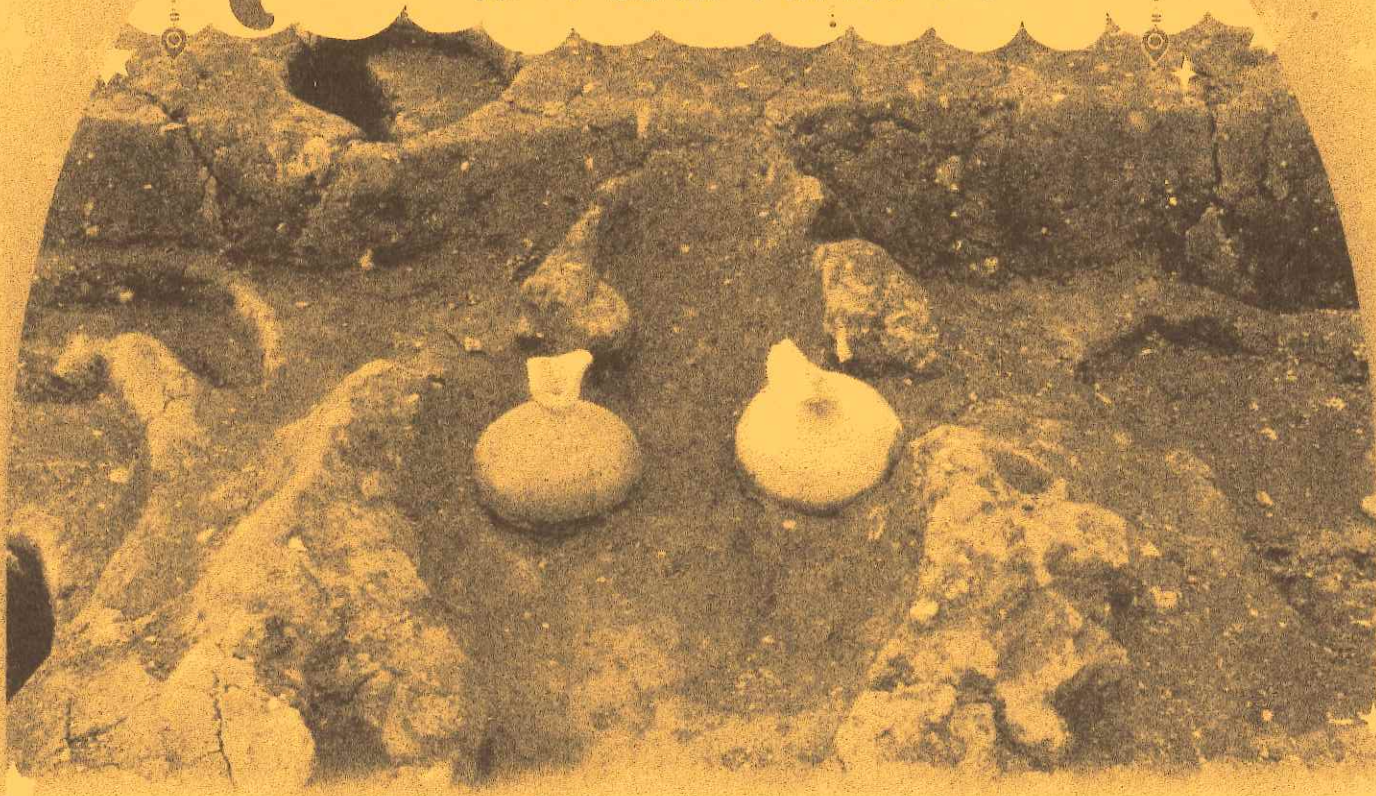


兵庫県立考古博物館 春季特別展「古墳時代の技術革新」関連展示

2個掛け造り付け^{かまど}竈の 支脚^{しやく}として使われた高坏

— 柿坪遺跡(朝来市) —



古墳時代中期は日本列島に多くの人・もの・技術・情報が入ってきました。そのうちの 하나가、写真にある古墳時代中期の竪穴建物の壁際に造り付けられた竈です。手前の赤く焼けている部分が焚口で、奥から煙を出していました。伏せて置かれた土師器の高坏 2 個は、湯沸かし用の甕を乗せるための台にしていたようです。竈の上部は無くなってしまっていますが、同時に甕を 2 つ掛けて調理できる構造(2 口のコンロ)だったことを示しています。

このような 2 個掛け竈は東日本に多く、西日本では 1 個掛け竈が主流のため、珍しい出土例です。兵庫県では、ほかに姫路市市之郷^{いちのこう}遺跡や太子町沖代遺跡でも見つかっています。

(学芸課 篠宮 正)